

イエローストーンのオオカミ現状報告 2020

執筆者：外山 万由

兵庫県立公園管理事務所にて長期にわたり公園管理に従事。園内植物の絶滅危惧種保全のためのプログラムや管理計画プログラム策定等に携わる。イエローストーン国立公園では10年以上にわたり園内植物や生態等について学び続けている。イエローストーン大生態系の唯一の日本語による植物案内書“Thumbs Up Yellowstone”を出版。

tuyellowstone@gmail.comに連絡もしくはアマゾンジャパンからも入手可能。

原案策定・企画・取材：スティーブ・ブラウン

30年以上にわたりイエローストーン国立公園にて案内を行う。数多くの日本のメディア、テレビ番組、ビデオシリーズ、雑誌記事等の制作に関与。高校のスーパーサイエンスプログラム等を含む、日本国中の様々な学校、大学を対象に、国立公園管理、野生動物および植物の生態等について教えている。

本文に掲載している図表については、イエローストーンオオカミプロジェクト2019年度報告を参考にさせていただいた。日本語による説明翻訳は外山が担当。また、本文は2019年5月18日最終データである、2020年度ジェームス・ハーフペニー博士のオオカミチャート、2020年7月8日におこなったリック・マッキンタイヤー博士との電話インタビューの内容及び、2019年イエローストーンオオカミプロジェクトレポートを基に、公園におけるオオカミの現状について報告を行う。

◆コロナウイルスがイエローストーンのオオカミに与えた影響について

イエローストーン国立公園は、旅行者からコロナウイルスがもたらされることを防ぐことを目的に、地元からの要請を受けて68日間閉鎖していたが、その期間中も公園のスタッフはイエローストーンオオカミプロジェクトチームも含め働き続けていた。イエローストーンは6月1日から再度完全にオープンし、現在は非常に多くの人々が訪れている。今日も死んだばかりのバイソンをオオカミが食べている素晴らしい光景が観察されている。

今回オオカミの近況アップデートを行うにあたり、リック・マッキンタイヤー博士に電話でのインタビューを行った。博士が語ったコロナウイルスがもたらしたオオカミへの影響の主な3点は次の通り。

1. イエローストーン公園が閉鎖していた期間は道路が非常に空いていたためオオカミは公園の道路を使っていた。オオカミプロジェクトのスタッフはオオカミが道路を使うことが普通にならないよう、オオカミを道路から遠ざける必要があった。
2. イエローストーンの68日間の閉鎖の静けさがもたらした別の影響はジャンクションビュートのオオカミの群れが以前から使用していた巣穴にしばらくとどまって長く利用することになったことである。6月1日からオオカミを観察する人々が一気に増えたため大人が子供を道路の近くから別の場所へと引っ越しをした6月18日までは子供たちの姿が非常によく観察できた。

現在オオカミウォッチングはイエローストーンでは通常に戻っている。ほとんどの人々は礼儀正しく、ソーシャルディスタンスを守っている。

3. 68日間公園内に入ることができたのは公園のスタッフのみだったことから、マッキンタイヤー博士も68日間公園内で研究をすることはできなかった。残念なことに25年間継続的に行ってきたオオカミの群れの構成・子供たちとの関係性等の観察は68日間分の空白ができた。ただ、その間25年間蓄積されていたデータを整理することにつき込み、500時間でコンピュータ内データのプルーフリーディングや重複した紙データを削除したり等、データは今までよりずっと使い勝手のよいものになったということだ。

国立公園管理局はオオカミ観察および他のアクティビティを案内するにあたり危機管理プランの作成&提出および政府からの認可を求めた。弊社が提出した危機管理プランには認可が下り、現時点でオオカミ観察のツアーを行うことが可能となっている。

◆イエローストーンオオカミプロジェクト2019年度報告から見るイエローストーンのオオカミの現状について

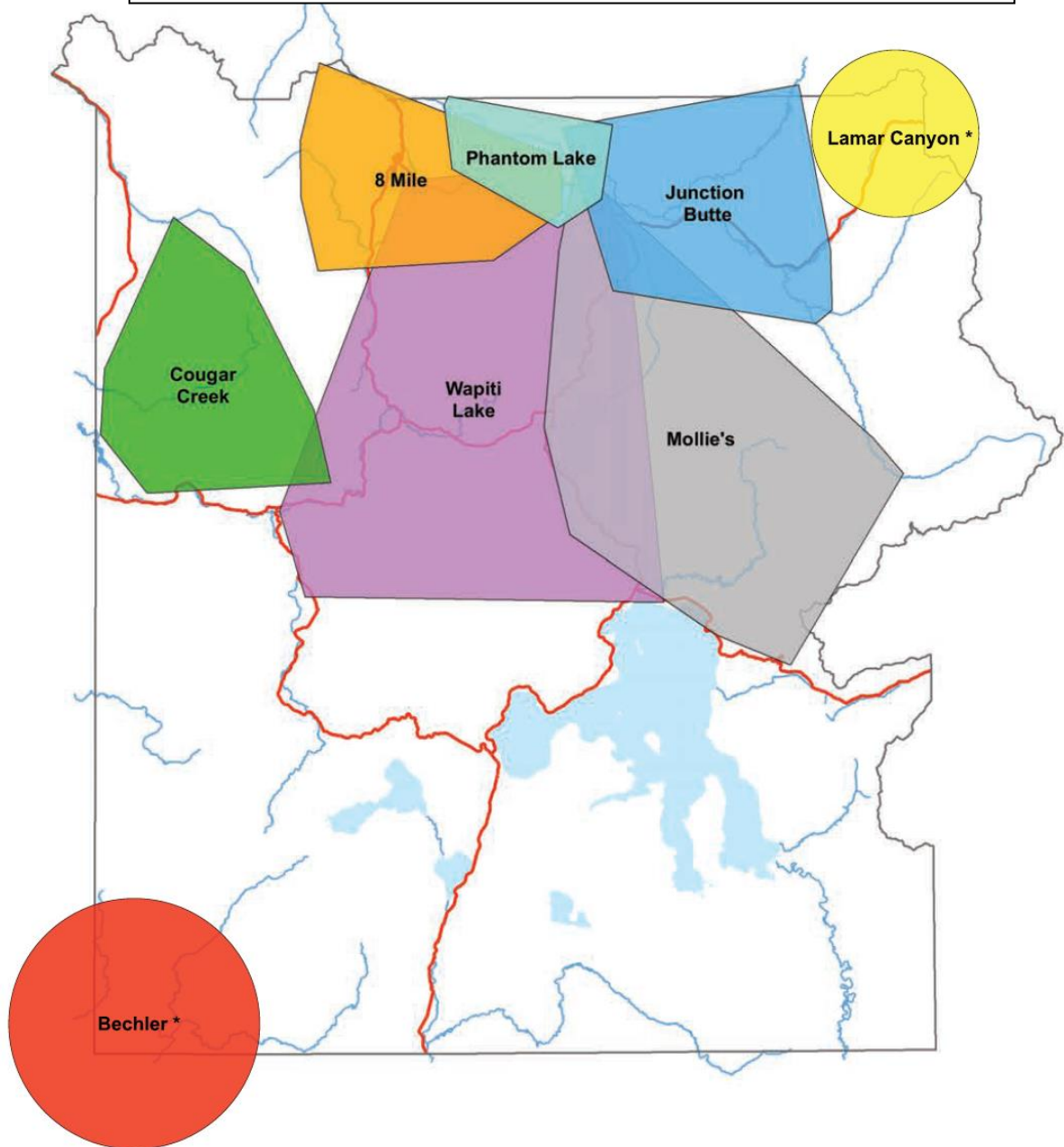
1) 公園内オオカミの群れの縄張り範囲

現在のイエローストーンのオオカミの頭数は約100頭程度。新しく生まれた子供の数はわかっていない。現在も研究が続いている。2019年のオオカミの群れの縄張り地図を下記に示す。2019年オオカミプロジェクトレポートより抜粋。

下記の地図で特に顕著なのはワピチレイクの群れが広範囲を使用しているということである。ワピチレイクの群れは2019-20年の冬、公園内の道路を使用し、広範に移動する姿が非常によく観察された。

*ワピチレイクが正式な群れの名称だが、地元の人々はワピチの群れと通常呼んでいるため、以降ワピチとのみ記載。

2019 年度 イエローストーン国立公園内オオカミの群れテリトリー
(上空からの 95%ミニマムコンベックスポリゴン法による)



* No radio collars present, unable to estimate territory size.

*発信機を付けたオオカミがないため、適格なテリトリーサイズが予測不能



写真：A. Sasaki 2020 無断転載禁止

ご案内した京都からのお客様 A. Sasaki様よりフォレストコール紙にワピチレイクの群れの雌および他の4頭の群れが雪の上で遊び駆ける写真の使用許可をいただいた。

この写真は2020年2月、約2キロの距離からスワロフスキー望遠鏡を通し撮影されたもの。5頭のオオカミの足の動きがそれぞれ異なることから、足の動かし方等がよく観察されて興味深い。背後の白いオオカミはワピチの群れのアルファ雌で、イエローストーンでは3代目の白いオオカミとなる。（このオオカミの母親もその母親も白いオオカミ）この写真からオオカミには疥癬の兆候もなく、健康であることがうかがえる。私たちはこのオオカミたちが死体を食べるために立ち去るまで2時間ほど観察した。

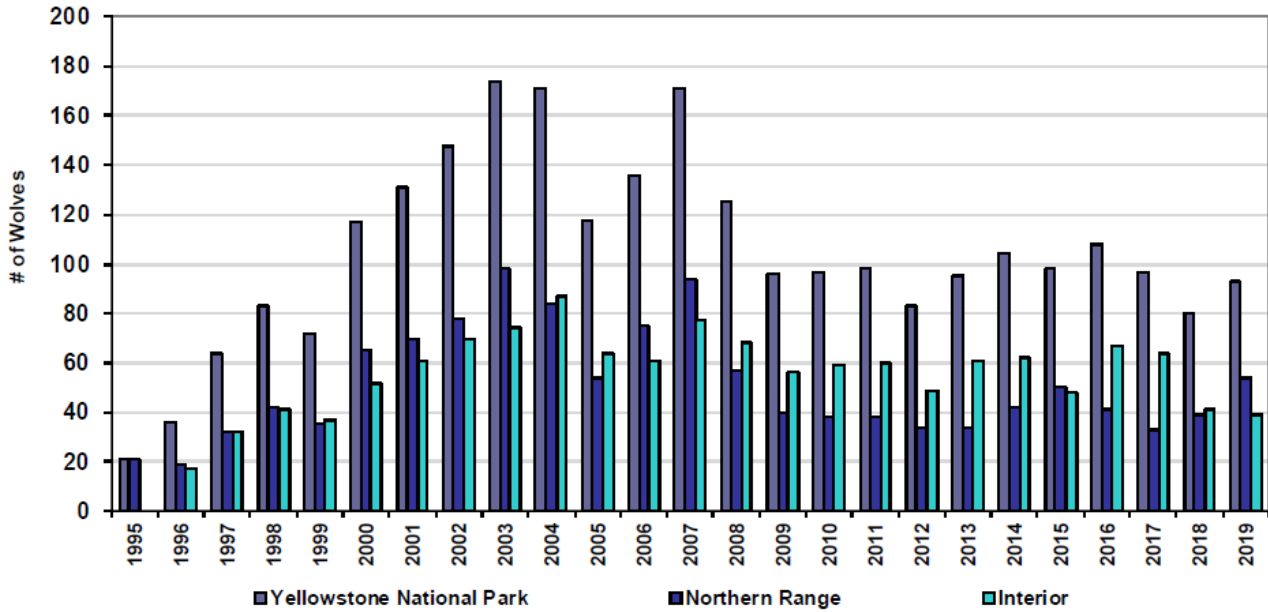
2) 公園内オオカミの頭数推移

下記の表は2019年イエローストーンオオカミプロジェクト年間レポートより抜粋した。オオカミの頭数が明らかに変化していることがこの表より見て取れる。2009年はオオカミの狩猟がイエローストーン北部および西部地域にて許可が下りた年であり、イエローストーンで生まれたオオカミが殺される結果となった。2019年モンタナ州では315頭が、アイダホ州では588頭以上が、ワイオミング州では49頭が狩猟のために殺されている。殺されたオオカミのうち数頭はイエローストーン公園で育ったもの、もしくはイエローストーンへ移動する可能性があったものである。2009年以降オオカミの数がこの狩猟の影響を強く受けていることは明確である。

イエローストーン国立公園内オオカミ頭数の推移

1995-2019

Yellowstone National Park Wolf Population
1995-2019



左から: イエローストーン国立公園・公園北部地域・公園中央部

3) オオカミの群れ毎の頭数内訳

2019 Wolf Population

YELLOWSTONE WOLF POPULATION (as of 12-31-2019)	Adults	Pups	Total
NORTHERN RANGE			
8 Mile	9	8	17
Phantom Lake	4	7	11
Junction Butte	10	8	18
Lamar Canyon (no collars)	3	4	7
Other (1154F & 1200M)	2		2
Northern Range Totals	28	27	55
NON-NORTHERN RANGE			
Bechler (no collars)	2	2	4
Cougar Creek	6		6
Mollie's	6	4	10
Wapiti Lake	10	9	19
Non-Northern Range Totals	24	15	39
YNP Total	52	42	94

2019年イエローストーンオオカミプロジェクト年間レポートより抜粋。

上記の表は 2019 年冬の時点でのオオカミの群れの内訳を示している。群れの一部はほとんど見かけられることがないものも含まれる。2つの群れは無線が装着されていないため、情報を得ることができない。最もよく観察される群れはジャンクションビュートパック、ラマーバレーパック、8マイルパック、ワピチパックである。ワピチパックは公園中央部に位置し、今まで継続的によく観察された群れであるが、現在新たに作られたオオカミの巣から人を遠ざけるために立ち入り禁止区域が設けられている。この表は 2020 年に生まれた子供は反映されていない。

4) オオカミ死亡原因および内訳

2019 年度 オオカミ死亡原因および内訳

2019 Wolf Mortality

Wolf #/Sex	Date of Death	Age	Color	Pack	Cause of Death
962M	1/22/2019	Old adult	Black	Alone	Harvest
1118F	9/12/2019	Adult	Gray	Alone	Unknown, likely due to complications after being shot and injured in late 2018
uncollared	10/29/2019	Yearling	Gray	Mollie's	Harvest
uncollared	11/19/2019	Pup	Black	Junction Butte	Vehicle
uncollared	11/19/2019	Pup	Black	Junction Butte	Vehicle
uncollared	12/10/2019	Pup	Gray	Phantom Lake	Harvest
uncollared	12/10/2019	Pup	Gray	Phantom Lake	Harvest

上記表右欄のオオカミの死因における Harvest という英語は、狩猟が原因で死んだオオカミを指す。2019年には7頭のオオカミの死亡が報告されている。24年間で初めて、オオカミ同士による死亡が報告されなかった。近年地方紙ではその原因をオオカミの数が減ったことによりオオカミ同士の軋轢が減少したせいであろうと伝えている。

◆新刊：2019-20年度出版のオオカミ関係の大切な2冊

最近出版されたオオカミに関する本をご紹介します。日本でも購入可能。

- ① Dr. Rick McIntyre, “Rising of Wolf 8”. Robert Redford forward. (下写真左)

日本のアマゾンでも購入できるが、英語のみ。アマゾンのベストセラーブック。

リック・マッキンタイヤー博士はつい最近イエローストーン国立公園の正式な教育専門家から退職したばかり。現在博士は25年の歳月中で有名だったイエローストーンのオオカミたちの記録をシリーズでつづっているところ。シリーズ1冊目はイエローストーンに最初に移入され、数多くのオオカミたちの祖先となった有名なオオカミNo.8に焦点をあてている。マッキンタイヤー博士はイエローストーンのオオカミが持つ価値感や日本の文化の価値観と通ずるところが多いという。イエローストーンの伝説的なオオカミの記録の話をどうぞお楽しみください。



② ジェームス・ハーフペニー博士 “Charting Yellowstone Wolves 25th Anniversary”（上写真右）

日本アマゾンで購入可能。英語のみ。ジェームス・ハーフペニー博士は世界トップの大型肉食動物の教育専門家。本書はイエローストーンの25年間におけるオオカミのデータをまとめたもので、オオカミの社会構造、群れの構造等がわかりやすく示されて

いる。それぞれのオオカミについての説明および世界初のオオカミの系譜も掲載されている。

参考文献 : Smith, D.W., D.R. Stahler, K.A. Cassidy, E. Stahler, M. Metz, C. Meyer, J. Rabe, N. Tatton, J. SunderRaj, L. Carroll, M. Jackson, B. Cassidy, E. Loggers. 2020. Yellowstone National Park Wolf Project Annual Report 2019. National Park Service, Yellowstone Center for Resources, Yellowstone National Park, WY USA, YCR-2020-01.
*このイエローストーン国立公園オオカミプロジェクト年間レポート2019はインターネットで誰でも簡単にダウンロードすることができます。(英語のみ)

これら情報に質問等がある方はお気軽に下記メールまでお問い合わせください。

Adventure Yellowstone, Inc. DiscoverWolfBear@aol.com 日本語でどうぞ!